

おじいちゃんのみんぱ

一宮市立三条小学校 三年

伊藤 駿佑



ぼくのおじいちゃんは、びょういんにいます。おじいちゃんは、ぼくが赤ちゃんのときに、かいだんから落ちて、頭を強くうってしまい、それから歩けなくなってしまったそうです。だから、おじいちゃんは車いすにのっています。

ときどき、ぼくはおじいちゃんの車いすをおしてあげます。しかし、それがすぐむずかしいです。広いびょういんのろうかでも、なかなかまっすぐ動かなくて、かべにゴンゴンとぶつかって、おじいちゃんに、

「バッカヤロー。」

と、おこられてしまいます。角を曲がるときは、もっとたいへんです。何回も後ろにさがらないと上手に曲がれません。

外に出たら、もっともっとたいへんです。ぼくが歩くだけなら、何の問題もない小さな小さなだんさも、車いすでは、すぐ力を入れないと通ることができません。けれど、力を入れるだけではおじいちゃんがおちそうになってしまい、とてもあぶないです。だんさ一つを通るだけでも、どうすれば安全に、そしてかんだんに通れるかを考えなくてはいけません。外のあぶないところは、だんさだけではありません。さか道もきけんです。ぼくが自てん車で通るときは、スピードが出て、気持ちがよくて、楽だから大すきなさか道も、車いすだと、まず後ろむきになって、すぐゆっくりゆっくり後ろむきでおりなければいけません。ぼくだけでは、おじいちゃんをつれて、さかをおりることもできません。あとは、石ころです。ぼくもよく石をけて遊んで、そのあと、道路においたままにしています。しかし、その石が、車いすの人にとっては、すぐきけんな物になってしまうなんて、思いもしませんでした。い前、車いすをおして、石を車いすのタイヤでふんでしまったら、ガクンとすごいようげきが、ぼくにもつたわってきました。きつと、車いすののっていたおじいちゃんは、もっとうすいしようにげきだったと思います。

このように、おじいちゃんが外へ出ることは、すくたいへんです。だから、だんさや強いしようげきにまけないように、車いすのせいのがもっと上がればよいと思います。そして何より、みんなが車いすの人たちの目せんに立って、道路のだんさをなくしたり、車いすの人が困っているときには、たすけてあげたりできればいいなと思います。ぼく自しんも、道路に石とか物をおかないこと、もし何かおいてあわばげることをしていきたいです。このようなぼくに

もできるところからはじめて、おじちゃんのように車いすの人たちが、安心して外に出られるような社会にしていきたいです。